

もりおか歴史文化館だより

Rekibunkan News Vol.

12
(2020.7.15 発行)

- ◆館長だより「ふたば」vol.8
- ◆2019年度開催企画展のご報告
- ◆歴史文化館レポート
第30回企画展 「漆戸茂樹没後150年 SHIGEKI —盛岡藩沿岸を測量した男—」
- ◆歴史文化館スタッフ伝言板 オリジナルミュージアムグッズのおはなし
- ◆インフォメーション



しょうき
「鍾馗図」 江戸時代中期

5代盛岡藩主 南部行信なんぶ ゆきのぶ (1642～1702) が描いた鍾馗の図。盛岡南部家には絵画を得意とする藩主が多く、火事などで失われたものを含めればかなり多くの絵が描かれていたことが知られる。現在でも5月5日の端午の節句の際に絵や人形として飾られる「鍾馗」は、特に好まれて画題であつたらしく、他の盛岡藩主たちも描いている。

鍾馗は元来中国で疫病神を払い、魔を除くと信じられた神であり、領内の飢饉や疫病に悩まされた盛岡藩主にとって、「鍾馗」の画題は単なる好みで描くものとは違った意味をもっていたのかもしれない。



鍾馗図

南部行信筆／江戸時代中期

本紙 132.4cm×56.5cm

軸全体 235.5cm×76.5cm(軸端含)

現在、2階歴史常設展示室・展示室V
にて当館収蔵の「鍾馗図」4軸を展示中



館長だより ふたば vol.8



2011年7月に開館した「もりおか歴史文化館」略して歴史文館は開館9周年、10年目に入りました。

かつてはヒマラヤシーダの巨木に囲まれ、静寂に包まれた県立図書館でした。それが一転、建物の姿はそのままだに、前庭の明るい、にぎわいあふれる広場を見渡す歴史文館となったのでした。

初代の館長を命じられて戸惑いました。

歴史の研究者でもなく、文化人と言われるほどの経歴もなく、何をする役目を持つのだろうと悩みました。

心もとないまま歩き出して間もなく、館のシンボルとなる扁額が届けられました。それは、盛岡が舞台のNHK朝ドラ「どんと晴れ」の主題となった「来者如帰」と書かれた扁額でした。まさに、その後の東京オリンピック獲得で有名になった「お・も・て・な・し」の心が書かれたものだったのです。

あれから今日まで「来者如帰」を胸に刻み、おいでになる皆様に心地よく過ごしていただくことを願って努めてまいりました。

お陰様で、目標だった10年目を待たず2020年6月16日、入館者200万人を達成することができました。

お越しいただいた皆様、支えてくださった皆様に、心から感謝申し上げます。

「ほんとに、おありがとうございます」

しかし、そんな喜びも束の間、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館を余儀なくされ、今はさびしい思いをしております。でもきっとまた、笑顔あふれるにぎわいを取り戻すと信じております。

雨が降ったら、歴史文館

雪が降ったら、歴史文館

カンカン照りにも、歴史文館

どうぞ、またおでっおくれってくなんせ。お待ち申し上げます。

もりおか歴史文化館 館長

畑中 美那子

第27回企画展

「殿さまのギフト ―贈り物にみる盛岡藩・南部家の結びつき―」

会期:2019年4月20日(土)～6月23日(日)

身分制度の厳しかった江戸時代、特に大名たちにとって贈答という行為は、その家の家格を示す上でも非常に重要な意味を持っていました。江戸時代を通じて盛岡藩を治めた大名盛岡南部家も様々な物を贈り、贈られてきたことが、多くの史料に記録されています。本展では盛岡南部家の「贈り物」にかかわる資料から、将軍家、婚姻関係を結んだ大名、家族や家臣など「家」や「人」との繋がり、贈答儀礼や藩内の産業などをご紹介します。

【担当学芸員:小西治子】



第28回企画展

「あやしきものども ―江戸の奇譚・怪談―」

会期:2019年7月19日(金)～9月16日(月・祝)

不思議な物事や少し怖い話、謎の生物の痕跡など、見る者の想像をかき立てる存在というものは、いつの時代でも私たちの心をひきつけます。江戸時代の盛岡藩の資料には、人魚のミイラの話や、地中に埋まった人魂、当時目撃された河童の生態など、当時の人々が興味を持った様々な「あやしい」記録が残されています。本展では、それらの資料をご紹介しますことで、江戸時代の人々とあやしい物事の関わり方にスポットを当てました。

【担当学芸員:福島茜】



第29回企画展

「盛岡と北海道 ―盛岡藩と蝦夷地の関係・交流史―」

会期:2019年12月21日(土)～2020年3月8日(日)

現在でも多くの人々が行き来する盛岡と北海道という2つの地域について、盛岡に残された資料をもとにその歴史的な繋がりを改めて感じてもらうと企画しました。江戸時代、特に盛岡藩内で作成された資料を中心に、当時の人々の交流や、盛岡藩と松前藩との意外な親密性、ロシアからの脅威に対する盛岡藩蝦夷地警備などの歴史を紹介。同時期開催の盛岡てがみ館企画展「北の大地に魅せられて―盛岡の先人と北海道―」とのコラボも実現しました。

【担当学芸員:熊谷博史】



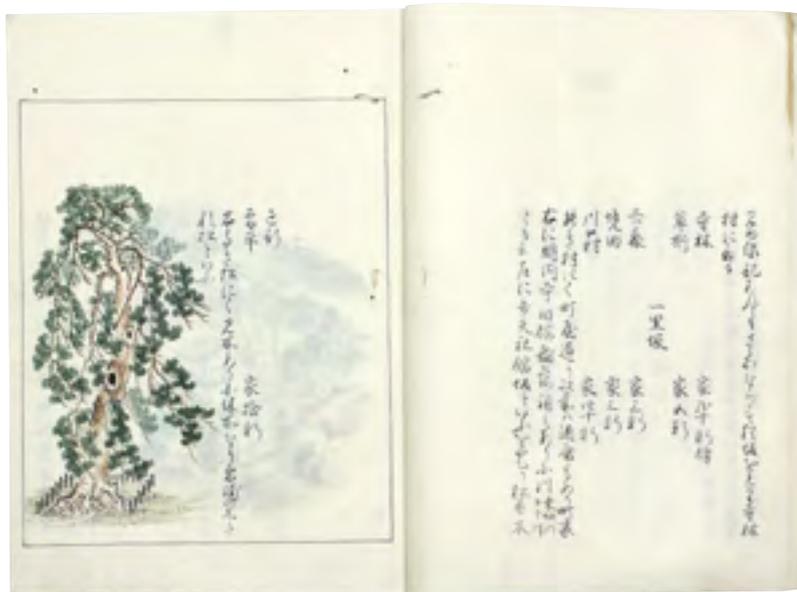


2020年4月15日から6月30日にかけて、企画展「漆戸茂樹没後150年 SHIGEKI —盛岡藩沿岸を測量した男—」を開催しました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、すべての関連イベントが中止となり、また会期中に臨時休館もいたしました。なかなか皆様にご来館いただくことができず大変残念に感じております。そこで、ご覧いただけなかった皆様へ企画展のご紹介と企画展裏話をお伝えします。

今回の主役はSHIGEKI=漆戸茂樹(1790~1870)という一人の盛岡藩士です。歴代の盛岡藩主でも、榎山佐渡のような家老でもありません。盛岡藩主や家老を支え、領内を奔走し、藩の政務をおこなった名もなき実務官吏の一人です。彼が携わった藩の仕事に関する資料や彼の著書などから、盛岡藩士の生き方や彼が生きた江戸時代末期の盛岡藩の様子を感じてもらおう展示となっています。

◆なぜ、SHIGEKIなのか

わたしは、もともと絵図が好き♡で、盛岡藩が作成した絵図について調べていました。その中で漆戸の名前を時々目にしていたのですが、ある時漆戸の記した「北奥路程記」に大変興味を持ちました。「北奥路程記」は活字化され広く知られている資料ですが、調べれば調べる程分からないことがたくさん出てきて謎の多い資料だと感じるようになりました。また、漆戸自身についても、どのような人生を送ったのか、どのような藩の仕事に携わったかなどほとんど知られていないことが分かりました。漆戸は、盛岡藩の絵図作成において非常に大きな役割を果たしています。いい仕事をしたのに評価されていないのは、非常に残念だと思いましたし、まだ知られていない良い仕事があるに違いないと感じました。わたしの絵図好きと漆戸をもっと知りたいという個人的な関心が今回の展示を生み出しました。



「北奥路程記」

◆ポスターの赤い色

まるで魔よけのお札を思わせる赤のポスター。漆戸が作成した絵図に対するわたしのイメージは、赤と黄でした。道を表す赤と街並みを表す黄色。今回はSHIGEKI的な赤をイメージカラーとしてポスターを作成してもらいました。大変目立っていますし、かっこいいというお声をたくさんいただいています。

◆SHIGEKIってどんな人？

わたしの勝手なイメージですが、とてもインテリで真面目、でもユーモアがあります。茂樹はいくつか著書を残していますが、著書には様々な書物が引用されていて勉強熱心だったことがわかりますし、一字一字丁寧に書かれています。その一つに、自分のことを「まろ(わたし)」、同僚の盛岡藩士栃内与兵衛を「とち」と記しているものがあります。とち&まろ。なんだか可愛らしいし、茶目っ気もある人だなと感じました。

◆SHIGEKIのここがすごい

①何といっても、ポスターなどに使われた「陸奥国盛岡領海岸絵図面控」の作成を主導したことです。この絵図は、盛岡藩沿岸を測量して作成されています。漆戸と盛岡藩士田鎖良右衛門をリーダーとして2班に分かれ、下北半島沿岸と三閉伊沿岸をそれぞれ約4ヶ月かけて測量しました。新幹線や自動車のない時代に、すべて歩いて測量したと思われます。江戸時代の測量と言えば伊能忠敬が有名ですが、伊能忠敬が作成した図と比べても遜色ないほど正確に描かれています。茂樹ら盛岡藩士が確かな測量の知識と技術を持っていたことに驚かされます。



「盛岡城下之図」



「陸奥国盛岡領海岸絵図面控」

②安政3年(1856)に15代藩主南部利剛が行った下北半島への巡見にお供した漆戸ですが、その時の出来事を日記風に記した「若葉の幣」も興味深いです。この巡見には、利剛の弟謹詳も同行していますが、なぜか謹詳と知られないように謹詳付役である中村伊代治の名前を名乗らせていました。旅の途中、利剛がトドを見て感動のあまり、画家でもあった中村伊代治にトドを描かせるようにと側近に言います(巡見で見た風景を「御旧領名所図巻」にまとめました)。側近らは謹詳のことなのか本物の中村伊代治のことなのか困惑したという逸話が見えます。藩の正式な記録には残されていない巡見の裏話や利剛のほっこり話が満載されているこの著書を、恐らく利剛に献上しています。利剛に自分のお茶目な話を見せてしまうという…普通の人にはできません。



「若葉の幣」



「御旧領名所図巻」

◆今なお残されたなぞ

大活躍の仕事人漆戸ですが、不正を犯したとして約8年半藩の職務から遠ざかった時期がありました。「不正を犯した」と藩の記録には記されるだけで、詳細については分かっていません。また、漆戸が藩の職務から離れていた間、漆戸の息子が藩の仕事を務めていましたが、その勤務中に自害してしまいます。その理由もはっきりとは分かっていません。いずれもわたしの今後の課題となっています。

今回の展示は、非常に偏ったそして極めて狭く限られた内容で、分かりにくい展示であったと思います。しかし、非常に小さくて偏った事柄を一つ一つ調べて積み重ねることで、盛岡の歴史の新たな一面を発見できるかもしれません。茂樹のようないい仕事をした人たちが、藩主を含め盛岡藩にはたくさんいたはずで、そうでなければ、約270年もの間盛岡藩が存続することはなかったと思います。これからも、そんな人たちの発見と小さな事柄の深掘りに邁進してまいります。

企画展の図録『漆戸茂樹没後 150年 SHIGEKI —盛岡藩沿岸を測量した男—』(64頁、1500円)発売中です。

◎もりおか歴史文化館 図録のお求め方法

- 直接購入のご案内 もりおか歴史文化館のミュージアムショップで販売しています。
- 郵送でのご購入 電話(019-681-2100)または E-mail(info@morireki.jp)で事前にお求めの図書の在庫状況をご確認ください。

ミュージアムグッズ、特に館のオリジナルグッズは、単なる土産物や雑貨ではなく、展覧会や資料の記憶を持ち帰るためのツールのひとつだと思います。お気に入りのミュージアムグッズは、時間が経った後でも、「いつ」「どこで」「誰と」「何を見て」「何を感じたか」を思い出すきっかけをくれるものです。そして、そのデザインに博物館資料を使用するならば、資料の特性を生かしながらも、見た人が思わずニヤリとしてしまうような、おかしみもあってほしいと思います。

そういった意味では、2019年の夏から秋にかけて発売された、当館のいくつかのオリジナルグッズは、とても良い物になりました。4デザインで展開したTシャツと2デザインのトートバッグには、当館収蔵資料の「水虎之図」に描かれた、大変ユニークな河童の絵をあしらいました。どれも爆発的な人気…とまではいきませんが、SNSでの告知をきっかけに遠方からも多数のお問い合わせをいただき、河童人気の高さを実感しました。

これらのグッズの大胆なデザインのおかげで、資料を知らないお客様も自然と「これ何?(笑)」と、興味をもってくださいます。そこが、鑑賞の入口・興味の入口になるのです。ミュージアムグッズは展示を見た後に購入することが多いですが、ときにはグッズへの興味が先になることがあっても良いのではないのでしょうか。特に、アフター・コロナとも呼ばれるこれからの時代、実際に博物館に足を運ぶことができない時でも、ミュージアムグッズを入手することで、「次の展示は見に行こう」「今度この資料が展示されるのはいつだろう?」「この資料の全体像を見てみたい」と、思っていただけ。そういうグッズを増やしていくことができたらと思っています。



Design by  Sean fonda

※もりおか歴史文化館ミュージアムショップは通信販売の対応も行っております。
気になる方はお気軽に当館までご連絡ください。(TEL019-681-2100/info@morireki.jp)

【新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組みについて】

もりおか歴史文化館では、盛岡市の対応方針を踏まえ、当面の間は下記のとおり対策を実施しております。ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解・ご協力をお願いいたします。

▶ご来館の皆様へ
ご協力をお願い

- 健康状態に十分ご留意いただき、発熱や風邪症状のある方、体調に不安がある方は来館をご遠慮ください。
- マスクなど口を覆うものを身につけてご入館ください。
- 入館時に、非接触型の体温計を用いて体温のチェックを実施いたします。
- 館内に設置しております消毒液でのこまめな手指消毒、手洗などの感染症予防にご協力をお願いします。
- 来館者カードにご記入をお願いします。
- 展示室内では、周囲の方と十分な間隔（1.5m以上）をとってご鑑賞ください。
- 展示ケースや壁にお手を触れないでください。

▶当館の取り組み

- 館内入口への消毒液の設置
- 館内の定期的な消毒、清掃強化
- 職員のマスク、手袋、眼鏡などの着用
- タッチパネルの削減
- 飛沫防止シールドを受付に設置

▶中止となる事業
(2020年度)

- 企画展「江戸へー盛岡藩の参勤交代ー」(8/1～10/19)
- テーマ展「南部家の生き方 episode.0 一系譜にみる中世の南部家ー」(5/20～7/19)
- テーマ展「盛岡藩のスポーツーわざくらべー」(7/23～9/22)
- れきぶん夏祭り(8/9)
- れきぶんナイトミュージアム「武士道ー侍ジャパンの淵源を探るー」(8/27)
- れきぶん講座「古文書にみる盛岡藩」(8/30)※企画展「江戸へ」関連講座
- 夏休み自由研究相談室(8/5～8/11)
- 冬休み自由研究相談室(12/26～12/30)
- 第3回もりおか歴史文化館自由研究コンクール(2/6～2/21)

ご利用案内

〈開館時間〉4月～10月 9:00～19:00(2階歴史常設展示室への入場は18:30まで)
11月～3月 9:00～18:00(2階歴史常設展示室への入場は17:30まで)

〈休館日〉毎月第3火曜日(祝・休日の場合は翌日) 12月31日～1月1日

〈入館料〉入館は無料です。

2階展示室のみ有料となり、右記の入場料が必要となります。

	個人	団体(20人以上)
小・中学生	100円	80円
高校生	200円	160円
一般	300円	240円

- 障がいをお持ちの方やその介護をなさる方(付添いを含めて2人まで)は、無料で入場できます。
- 盛岡市在住で65歳以上の方は、入場料が免除されますので、係員に証明書等をご提示ください。
- 盛岡市内の学校に就学している小・中学生の方は、入場料が免除されます。
- 企画展をご覧になる場合は、別途入場料が必要となる場合があります。

〈交通の案内〉

- 電車をご利用の場合 ○JR盛岡駅下車 徒歩20分
 - バスをご利用の場合 ○岩手県交通・岩手県北バス
 - お車をご利用の場合 ○盛岡IC・盛岡南ICから車で25分
- ※当館の敷地内に一般車両の駐車スペースはございません。隣接する「盛岡城跡公園地下駐車場」(有料)など近隣の駐車場をご利用ください。



もりおか歴史文化館

〒020-0023 盛岡市内丸1番50号
Tel:019-681-2100 Fax:019-652-5296
<https://www.morireiki.jp/>